令和６年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　今町　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和６年４月１８日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１０日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問調査

児童質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の６年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な 傾向や特徴など	全国・県と比較しても学習に対する関心が低い傾向。 解答の状況を見ると、記述問題への解答率・正答率が低く、言語の知識や使い方の定着が課題である。
	よくできた問題	本文や問題文を読み、求められている答えを選択肢の中から選んで答える問題。
	努力が必要な問題	漢字を正しく使う問題。その他、自分の考えを述べる等、記述での解答が求められる問題。

算数	全体的な 傾向や特徴など	全国・県と比較しても学習に対する関心が低い傾向はあるが、必要性は感じている。 解答の状況をみると、図形に関する知識や資料からデータを読み取る力の定着が課題である。
	よくできた問題	基礎的な四則計算や、与えられた計算式から答えを導き出す問題。
	努力が必要な問題	速さや面積など、公式を利用して答えを導き出す問題や、立式、理由等を述べる記述問題。

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
○学校での学習活動について 　タブレット端末の活用について、「楽しみながら学習を進められている」「友達と協力して進められている」に固定的な回答をした児童の割合が100%であった。また、タブレット端末の活用に関わるその他の質問の全てに肯定的な回答をした児童が過半数を超えていた。ただ、個人での活用になると３割程度の児童が否定的な回答となっており、個々の活用力に差があることが分かった。学び合いも大切にしつつ、タイピング（ローマ字入力）等、個別最適な指導も図り、学力の向上につなげたい。 ○家庭での生活習慣について 　「１日あたりのスマホ等でゲームする時間」について、過半数を超える人数が３時間以上スマホ等でゲームをし、８割に近い割合で少なくとも２時間以上を超えている。しかし、「１日あたりスマホ等を勉強に活用する時間」については、過半数以上が全く使っていないと回答。また、「使い方の約束」についても、否定的な回答が過半数を超えている。スマホ等の効果的な活用法について、家庭への協力を求めるとともに、情報提供を行っていく。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

　国語科においては、漢字や慣用句等、基礎的な語彙力を高める。算数科においては、基礎的な計算力や公式などの知識の定着を図る。またどの教科においても自分の考えを、ノート、発言、タブレットの活用等、様々な形で相手に伝える場を設け、インプットとアウトプットの相互作用をねらった学習展開を仕組む。

②　家庭生活習慣等に関する取組

　質問調査の結果分析に加え、家庭での学習時間が県・全国の数値を大きく下回っている。宿題の内容に重点を置きつつ、量（費やす時間）を増やす。また自主学習を中心に、「自ら学びたい」と思えるような宿題の在り方について引き続き検討していく。